

ファジル・サイ Fazil Say

1970年、トルコのアンカラ生まれ。アンカラ国立音楽院で学んだ後17歳で奨学金を得て、デュッセルドルフのシューマン音楽院に留学。テイヴィット・レヴァインに師事。1992～95年までベルリン音楽院で学び、1994年にヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションで優勝。以後、国際的に演奏活動を開始。ニューヨーク・フィル、イスラエル・フィル、ホルティモア響、サンクトペテルブルク響、BBC響、フランス国立管などに定期的に出演。ルツェルンフェスティバル、ヴェルビエ音楽祭、モンペリエ音楽祭、ルールピアノ音楽祭、ベートーヴェン音楽祭やウィーン楽友協会、カーネギーホール、エイズリー・フィッシャーホール、ベルリンフィルハーモニー、ウィグモアホール、シャンゼリゼ劇場など数々の舞台上で演奏する。また、ユーリ・バシュメット、シュロモ・ミンツ、諏訪内晶子、マキシム・ヴェンゲーロフらとも共演。活動の場を広げている。

作曲家としては16歳で手がけた「Black Hymns」がベルリン建都750周年記念行事で演奏される。1991年には「ヴァイオリンとピアノのための協奏曲」をベルリン交響楽団と共に自ら演奏。1996年にはボストンで「ピアノ協奏曲第2番」を初演。他にもトルコ文化庁委嘱作品のオラトリオ「ナスム」は、2001年にアンカラでトルコ大統領臨席のもと初演された。2002年にはフランス国立管により、「ピアノ協奏曲第3番」の初演が行われた。レコーディングは1998年にリリースのデビューCD「トルコ行進曲～サイ・ブレイス・モーツァルト」が絶賛される。その後「春の祭典」は2001年度エコー賞クラシックと2001年度ドイツ音楽批評家最優秀レコーディング賞に輝いた。その後も「モーツァルトピアノ協奏曲集」、「ベートーヴェンソナタ集」や自作を集めた「ブラック・アース」や「ハイドンソナタ集」などをリリース。

-----***** 曲 目 *****-----

1. 「春の祭典」(第1部全曲と、第2部の後半部分)

* 今回用いるCDは、ストラヴィンスキーによるピアノ/四手版を基本に、ファジル・サイが1人で多重録音したもので、オーケストラ版の一部の要素も加えています。

ピアノ/四手版の原作は、ストラヴィンスキーと親しかったドビュッシーとストラヴィンスキー自身の演奏により、1912年6月9日に仲間うちの演奏会で初めて演奏されています。

この録音では、ピアノ/内部の弦に直接手を触れて弦をはじいたような音を出す”内部奏法”がいくつかの局面で用いられていますし、またピアノ/の弦にあらかじめ細工を施した”フリペアド・ピアノ”による通常のピアノ/音とは異なったものも部分的に重ねられているようです。

2. 「ブラック・アース」・・・内部奏法と通常の鍵盤奏法を併用した美しいピアノ/曲で、多重録音ではありません。トルコの盲目の吟遊詩人によるバラードにインスピレーションを得て、ファジル・サイが作り上げた曲です。
3. 「パガニーニ変奏曲」・・・パガニーニの24のカプリースの第24曲をモチーフにしたものです。
4. 「トルコ行進曲”ジャズ”」・・・ファジル・サイのアンコールの定番曲になっています。